

三井住友海上火災保険株式会社

広報部 〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台 3-9
TEL: 03-3259-3111(代表)
www.ms-ins.com

2024年4月1日

2024年度入社式 社長メッセージ

MS&ADインシュアランスグループの三井住友海上火災保険株式会社（社長：船曳 真一郎）は、4月1日、本社で新入社員254名を対象に、「2024年度 入社式」を執り行いました。

<社長メッセージ>

皆さん、入社おめでとうございます。三井住友海上の新たなメンバーとして、254名の新入社員の皆さん全員を、心から歓迎します。皆さんの晴れやかな表情を拝見することができ、とても嬉しく感じています。

本日は最初に、皆さんにお伝えしておかなければならないことがあります。当社は昨年12月に金融庁から行政処分を受け、2月末に業務改善計画書を提出しました。新入社員の皆さんにとって大事な時期に、不安に思った人も多かったのではないかと思います。この件で心配をかけたことを申し訳なく思っています。中には当社への入社に悩まれた方もいたかもしれません。ですが、内定者の全員が入社式に出席してくれました。これから当社が成長をしていく上で、今日は大切な第一歩になったと私は確信をしています。

今回の業務改善命令は、過去の価格調整行為に関する反省と対策を金融庁に報告することを求めるものでした。そのため改善計画書には、入札時における業務の健全かつ適切な運営を確保するための方策を記載することになります。しかし、当社は、この計画を達成するための入札のあり方の分析と対策を検討することにとどめませんでした。この機会を踏まえ、これからの時代をリードする保険会社になるためには、どのようなビジネススタイルに変革していくべきなのか、そこまで踏み込んで改善計画を描いています。

例えば、お客さまの株式の保有や、過度な本業支援によって契約を獲得するような仕事のやり方を変えることにしました。損害保険事業は「お客さまのリスクを判断して対策を提案すること」が最も重要な業務です。今回の計画には、リスクの判断力と対策力の高度化を徹底的に突き詰めていくことを織り込みました。この計画を推進していけば、私たちは損害保険業界で最も輝ける保険会社に必ずなれる。今、私にはそのような勇気が湧いてきています。この計画を推進するにあたり、皆さんは過去とのしがらみのない最初の実践者になります。ぜひ、会社の新しい計画を信じて、自信を持って社会人生活をスタートしてほしいと思っています。

社会・地域の課題解決に向けて

ところで、皆さんは、小学生時代に東日本大震災を経験し、大学入学時には新型コロナによるパンデミック、そしてロシアのウクライナ侵攻と混迷の青春時代を経て当社に入社しました。予期せぬ事態が続くことに、若い皆さんは、社会の不幸を悲しむか、このような時代に学生生活を過ごした自分の不幸を憂えるか、それとも何か別のことを思ったでしょうか。私はさまざまな出来事を目の当たりにした時に、自分がやるべきことがあるのではないかと、そして自分ができることは何かを考えることが大事だと思っています。

当社は「未来にわたって、世界のリスク・課題の解決でリーダーシップを発揮するイノベーション企業」を目指すことを標榜しています。その世界観の実現のためには、当社の社員が、働いている地域の課題について解決力を身につけるための勉強をする機会が必要になっていると考えていました。そこで、地域の課題を解決するための事業をつくりだすことを考える大学として、岐阜県の飛騨高山で開校を予定している「Co-Innovation-University」に、当社の社員専用の講座を開設してもらえないかお願いをしていました。

2026年4月の開校の準備が整ってきたということから、先日、この大学づくりに奔走してきた井上代表理事と面談をしました。井上さんは飛騨高山の出身ですが、高校生の時から地元の林業の衰退とエネルギー供給網の貧弱さに危機感を抱いていたことから、京都大学に進学後、バイオマスによる自然再生エネルギーの会社や、小規模ですが水力発電会社を学生時代に設立しています。

しかし、このような地方の社会課題については、東京や京都などの都市にある大学でないと学ぶ機会が少なく、また地方ではスタートアップをしにくいことに疑問を感じたそうです。その疑問をきっかけに、社会課題を抱えている地域にこそ大学を作るべきではないかと考えて、出身地の飛騨高山で大学を開校しようと決心したとのことでした。また、飛騨高山以外の地域とのつながりを大事にして、全国の課題を解決できる環境作りを考えていきたいとも語っていました。

私はその志の高さと、文部科学省や岐阜県、そして産業界を巻き込んで実現にこぎつけた実行力にとても感服しましたが、実は会ってみて一番驚いたことは、井上さんがとても若かったことです。生年月日をお聞きしたら、平成元年、1989年生まれとのことでした。まだ、35歳です。弱冠35歳の若さで、地元で大学を作ってしまうとする理論と実践が出来過ぎていて、ひょっとしたら私は騙されているのではないかと疑ったほどでした。でも、騙されていてもよいので、井上さんのビジョンの顛末を見てみたいという魅力にかられています。

2026年に開校したら、皆さんにも配属先の地域の課題解決についてこの大学で学び、そしてチャレンジするチャンスが巡ってくるかもしれません。もちろん新入社員の皆さんには、将来、この大学での受講の機会を活かしてほしいと思いますが、私は皆さんにはまず井上さんのように、「この問題を解決したい」「よりよい社会づくりを実現したい」という自分なりの「想い入れ」を持ってもらえることを期待しています。そして自分の「想い入れ」をカタチにするためのストーリーを描いてほしいと思っています。

人事制度改定について

当社は2025年度から人事制度を大きく見直します。新たな人事制度では、皆さんの想い入れを実現するために必要なスキルの習得をサポートします。また、社員一人ひとりが自身の成長と、社会や会社への貢献を実感できる働き方を作っていきます。加えて、年功的な要素が残る従来の制度から、スキルアップやチャレンジを評価する新たな制度に変えていきます。新入社員の皆さんもスキルを高めて、「想い入れ」をカタチにしてもらえることを期待しています。

最後に皆さんへ伝えたいこと

最後にもう一つ話をしておきます。皆さんは明後日に配属先が発表されます。研修を終える1ヵ月後には、社会人としてそれぞれの職場で初めて仕事に向き合うこととなります。おそらく、入社前のイメージと違うことばかりで戸惑うことになるでしょう。実際に働いてみると、思い描いていた仕事とギャップを感じる瞬間は必ず訪れるものです。

でも心配しないでほしいと思います。どんな仕事であっても、皆さんのなりたい未来の姿につながっていきます。小さな仕事にも意味があり、新たな気づきがあります。損害保険事業は社会の安定と成長のために必要な存在です。皆さんの仕事は必ず誰かのために役立っています。感謝してくれている人がいます。

地道な仕事を積み重ねることが、なりたい未来の自分につながると信じてトライしてください。ただし、仕事に運不運はつきものです。どんなに頑張っても成果を出せない時があります。やりがいを感じる事ができない業務が続くこともあるでしょう。ちょっと厳しめの上司にあたることもあるでしょう。

でも、心配をする必要はありません。三井住友海上は今年を、会社が目指す姿のミッションと提供すべき価値のバリューを社員全員で共有した上で、目指すべき未来像のビジョンを共に創り上げていく再スタートの年にするにしました。その実現に想いを込めて、この4月に社員全員へ25万円の一時金をお支払いすることを決めました。今日から新しくメンバーとなる新入社員の皆さんにも支給します。今年、当社に入社した皆さん全員が、まずは運に恵まれた会社人生をスタートできるのです。

皆さんは強運の持ち主であることに自信を持って、一人ひとりが個性を發揮して働いてほしいと願っています。そして、「未来にわたって、世界のリスク・課題の解決でリーダーシップを發揮するイノベーション企業」になるために、大きな変革に挑む当社の新たな推進力となってくれることを期待して、私の挨拶とさせていただきます。

あらためて、入社おめでとう。

以上